資料

平成31（令和元）年度　佐賀県立北山東部小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
①郷土を愛する子ども：豊かな自然・温かい地域や人・確かな伝統を大切にする子ども ②心豊かな子ども：豊かな感性を持ち，自他のよさを知り，大切にするとともに，思いやりの心を持って人に接する子ども ③心身共にたくましい子ども：武道の精神を学び，礼節を重んじ，自分に負けない子ども ④生き生きと学ぶ子ども：めあてを持って主体的に学習し，自分の考えを進んで発表する子ども	①きめ細やかな情報提供と密な交換，保護者・地域等との連携や交流の充実 ②子どもたちの望ましい学習習慣や生活の向上 ③山村留学制度の充実と推進，協働による連携 ④校内研究の推進 ⑤ICTを利活用した教育の推進 ⑥ふるさと体験活動の充実 ⑦武道（剣道）教育の充実 ⑧人権・同和教育の推進 ⑨「働き方改革」への対応

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　あらゆる場面で自信を持って自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教員の資質向上	授業力の向上	・児童の主体的学習を促していくためのガイド学習を取り入れた授業を1日1回は行う。 ・全員研究授業を1回以上行う。 ・児童理解に努め，個に応じた授業づくりをする。	・ガイド学習のマニュアルをもとに，ガイド学習の進め方が身につくように教師が手本を示しながら進める。 ・ガイド学習の基礎的能力である話し合う力を高めていく。 ・ガイド学習を含む，複式授業についての情報収集を積極的に行い，共有する。	B	・教科によっては、ガイド学習のマニュアルを作成し、それをもとに児童は、自力解決、話し合いを進めることができるようになった。しかし、全ての教科、学年で実施はできていない。また、話し合い活動も一方通行的な発表のため、考えを深める練り合いの活動はあまりできていない。 ・全学年で研究授業を行うことができた。教員はソーシャルスキルトレーニングの進め方を理解することができた。 ・複式授業についての情報収集が十分ではない。	・学年ごとの統一したガイド学習のマニュアルを作成する。これにより、上の学年にあがったときもスムーズにガイド学習に取り組める。 ・1人しかいない学年や間接指導のときに、無活動状態をつくらないよう、活動のめやすを持たせたり、プリント等を工夫したりする。 ・ガイド学習等の自主的学習についての振り返りをさせる。 ・複式学年別指導の授業の進め方について情報を収集したり教員同士で情報交換をしたりする必要がある。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	学校運営組織力の向上	・小規模校ならではの，教職員1人1人の分掌事務負担軽減のために，計画的業務の遂行・業務の分担・効率的な業務遂行を常に意識する。 ・各種行事や運営のあり方，育友会活動との連携のあり方について見直しを行っていく。	・基本的に、各種会議はペーパーレスとし、各自が資料を読み込んだ上で参加できるよう、早めに準備するようにする。 ・どの業務に時間がかかっているかを分析し、優先順位、重要度を考えて、勤務時間内にメリハリをつけて業務に取り組むようにする。また、特定の者に業務が偏っていないかについて、定期的に見直しを図る。 ・ﾃﾞｰﾀの共有化を図り、業務改善につなげる。長期休業中にﾃﾞｰﾀ整理期間を設ける。 ・水曜日に設定している定時退勤推進日の徹底を図る。 ・地域行事への職員の参加については、昨年度に引き続き、管理職から保護者・地域の方への理解を呼びかける。	A	・職員会議では、ほとんどの資料をペーパーレスとした。印刷して配布する手間はなくなった。ただし、事前に各自が読み込む時間はなかった。 ・出張は、バランスを考えながら、できるだけ児童の自習の時間を考えながら行った。それでも分掌事務には多少の偏りはみられる。 ・水曜日の18：00退勤は、ほぼ100％達成した。 ・地域行事（山村留学に関する行事を含む）についてもなくすことは不可能なので、少しずつ手間を少なくなるよう保護者や山村留学実行委員の方々と話し合いを行ってきた。	・提案者が、資料を読むだけの会議ではなく、資料をもとに要点のみを説明する時間としたい。そのためにも事前に資料を目を通すしておくようにする。 ・行事が多いので、行事の精選をあらためて行いたい。行事内容を減らしたり、同じような行事を合わせて行ったりするよう考える。
教育活動	●志を高める教育	郷土のよさを知り，夢に向かって努力しようとする気持ちを高める活動の推進	・（佐賀）富士町が好きだと回答する児童80％以上 ・郷土（富士町）について学ぶ体験活動や調べ学習を各学年が取り組む。	・（保護者を含む）地域の人材等を活用した体験活動を実施する。 ・富士町をテーマにした調べ学習を行い，ふるさと文化祭等で発表する。 ・高学年を中心に自己の夢について語る学習に取り組む。	B	・ほとんどの児童が富士町好きだとアンケートで回答している。 ・地域の人材を活用した体験活動を実施することができた。 ・富士町をテーマにした調べ学習を行い，ふるさと文化祭で発表することができた。 ・自己の夢について語る学習は十分ではない。	・自己の夢について語る学習を各学年に計画的に位置付けていく必要がある。
	●学力の向上	個に応じたきめ細かな指導の充実	・国語・算数・理科・社会などの学習においては，可能な限り複式解消を図った授業を行う。 ・「井原山チャレンジ」で全員90点以上をめざす。 ・家庭学習を充実させるように家庭への啓発を図る。	・複式学級の中で，児童自身が「主体的に学ぶ」学習指導や学びの手順がわかるような学習の定着について，研修を深めていく。 ・1年生から6年生まで，系統立てたノート指導について教員で共通理解を図り，継続した指導を継続する。 ・自主学習を全校で推進し，活用力をや学習への興味関心を高める。 花丸ノートコーナーを設置し，児童の自主学習への意欲を高める。	B	・複式解消に努めた授業を実践し、個別指導を徹底することができた。 ・自主学習を全校で推進することができたが児童の意欲の高まりには、個人差がみられた。 ・系統立てたノート指導については、十分ではない。	・自主学習の進め方を児童に理解させ、意欲を高める必要がある。 ・系統立てたノート指導については、教員間で共通理解を図り、継続して指導していく必要がある。
		読書活動の推進	・児童の100冊以上(おすすめの本を含む）読書量を目指す。児童の達成率100％をめざす。 ・読書のジャンルを広げ、質の向上をめざす。	・児童自らが様々な分類の本に興味を持つことができるような環境整備やイベントの実施。保護者との連携を図り、児童の読書活動を推進していく。	B	・学期ごとに読書量を確認したことで，100冊読書をほとんどの児童が達成できた。 ・図書館祭りなどのイベントを行うことで、児童の読書に対する関心が高まり、期間中の貸し出し数も増えた。 ・ジャンルの幅も広がってきてはいるが、まだ個人差が見受けられる。児童自らが様々な分類の本に興味を持つことができるような環境や手立てが必要だと考える。	昨年までの各学年の「おすすめの本」を国語の教科書の「学年の本だな」から選んだ本をもとに、「おすすめの本20冊」に変更し、学年にあったものにした。

教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	電子黒板やデジタル教材の活用	・デジタル教科書等を利用した教材提示を行い、児童の興味関心や理解を高める授業を実践する。 ・全学級で情報モラルの授業を実践する。	・ICT担当とICT支援員が意見を交換しながら，適切な自作教材の作成法や他校とのネット通信等を進めていく。 ・プログラミング学習の基礎的な力を育てるため，総合の時間等を使いプログラミングの体験をさせる。 ・児童に，スマートフォンやパソコンなどの情報ツールに潜む危険について指導をし，情報モラルを身につけさせる。	B	・デジタル教科書による教材提示は全学級で行っている。また、ICT担当とICT支援員が意見交換をしながら、タブレットを利用した学習を行えるようにした。 ・プログラミングの体験やパソコンを使った活動を行い、プログラミング学習の基礎的な力を育んできた。 ・情報モラルについての授業はまだ行っていない。	・外国の子どもたちとのビデオ交流を3学期に行う予定である。ICT機器を活用して、国際理解教育も行っていく。 ・情報モラルについての授業を行っていく。
	○幼保小中連携	中山間地域の近隣の保小中との連携の推進	近隣の保育園・小学校と毎学期交流授業を行う。 6年生の中学校進学に対する不安解消のための活動を実施する。	・学校間交流のための打ち合わせの時間を確保する。 ・児童同士がコミュニケーションを取りながら学べる場を設定する。	A	・近隣の保育園が本校の運動会に参加し、交流を行った。また、近隣の小学校との交流では、事前に打ち合わせを行い、当日スムーズに交流できるようにした。 ・修学旅行や、交流学習でのレクレーションなどで、児童同士がコミュニケーションを取ることができた。児童も積極的に交流することができた。	・3学期の交流学習は、本校が主になって授業を行うため、事前準備と打ち合わせを前の週までには行い、当日スムーズに交流できるようにする。 ・6年生の中学校進学に対する不安解消のための活動を工夫する必要がある。

②規則正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	全校剣道の充実	・剣道を通して，自分の体力づくりに関心を持たせ，基本的生活習慣の大切さを学ばせる。 ・剣道を通して，礼節を重んじる態度を身につけさせる	・「剣道で学ぶ」ことの意味や技術面のめあてなどを剣道ノートに記述させ、ふり返ることで、児童の自主性や成長を促したい。 ・今後とも基本的な生活習慣育成、精神力強化のため、全校剣道を継続していきたい。	A	・剣道を通して強い体をつくることができている。 ・剣道で学んだことを生活に生かすように指導を続けたことで礼儀正しさや集中力などに成長が見られた。	・試合や校内剣道大会に向けて自分の目標を立てさせ、振り返りを行っていくことで児童の自主性を促していく必要がある。
		望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食の内容・重要性について、学年に応じて児童に考えさせ、実践させる。 ・学校給食を活用し，健全な食生活と食事マナーの習得に取り組む。給食を好き嫌いせずに、食べきれる量を考えながら食べる。食事中・食後のマナーの定着を図る。	・給食時に児童の様子を観察しながら、引き続き給食時間に食事中のマナーについて指導を行う。 ・朝食習慣の定着を図るため、適宜保健指導を行うとともに、必要に応じて栄養教諭とともに指導を行う。	B	・給食時の指導や、栄養教諭との授業を通して、児童はマナーを意識して給食を食べることができていた。しかし、その意識を継続させ、正しいマナーの習得とまではいっていないため、引き続き指導が必要である。 ・朝食に関しては、ほとんどの児童が食べて来ているが、具体的な内容や重要性について児童に考えさせることができなかった。	・食事のマナーがんばり週間を設け、正しい食事のマナーを意識させる。家庭でも指導してもらえるよう保健だより等で啓発を行う。 ・全校朝会の保健の話で、朝食の内容や重要性について児童に指導を行う。
	●心の教育	道徳教育の推進	・年１回以上、全学級でふれあい道徳の授業公開を行う。 ・学期に1回、「命」に関する授業を行う。	・「ふれあい道徳」では、生命尊重・家族愛を中心とした価値項目で授業を実践し、よりよい生き方を保護者と一緒に考えさせる。 ・各教材の道徳的価値から，目標を設定し，各内容が網羅されたバランスのとれた年間計画を作成する。 ・児童個々の心の動きを記録し，道徳的成長を見取る。	B	・全学級でふれあい道徳の授業公開を行うことができた。 ・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ友だちと自分を大切にする心を育むことができた。 ・道徳の授業づくりや評価に関しての研修を実践することができていない。	・道徳の授業づくりについて研修会を実施し、教員間で情報交換をする必要がある。 ・家庭と連携して道徳教育を推進するために授業の内容を家庭へ知らせていく必要がある。
	●いじめの問題への対応	人権教育の充実	・児童一人ひとりが大切にされる学校・学級をめざす。 ・全職員で取り組み、児童の人権意識を高める。	・月に1回人権教室を実施する。（学期に1回、校長・教頭・養護教諭も行う。） ・毎学期，全校での人権学習・集会を実施する。 ・保健の「いのちの教育」とタイアップした授業を実施する。 ・12月に全校人権集会を実施する。 ・月１回の「心のアンケート」を活用し、各児童の実態に応じたより具体的な指導を実践する。	A	・月に1回人権教室を実施することができた。 ・月１回の「心のアンケート」を活用し、全職員で児童の実態を共通理解して個に応じた指導を実践することができた。	・人権教室の年間計画を具体化し、より多面的な人権教育を展開する必要がある。
	○生徒指導	きめ細かな個別指導の充実	・生活の約束『4つのあ』(あいさつ・あんぜん・ありがとう・あとかたづけ)活動の定着を図る。 →『4つのあ』を進んでできる児童が100%を達成する。 ・基本的な行動様式の定着を図り，気になる子どもに対して全職員で支援する。 ・安全教育の指導の徹底を図る。	・『4つのあ』をベースにして，学習や生活場面でがんばっている児童をスターシールなどを活用してほめる。全校の場でも紹介する。 ・教育相談・生徒指導協議会を原則毎月開き，全職員で共通理解を図り，児童対応をする。 ・開発的生徒指導・教育相談を心がけ，ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ，自己肯定感や自己有用感を高める。 ・全校帰りの会において，交通安全や防犯意識を高める全体指導を行う。	B	・「4つのあ」については、暗唱できるほど意識はできているが、実践となると、後片付けが十分達成できなかった。 ・交通安全や防犯意識については、十分できている。	・学習や生活場面でほめることを重視していく。 ・全職員で共通理解を図ることが重要で、今後もさらに充実させていく。 ・自分の命は、自分で守ること、さらに意識づける。

③　地域から信頼され，地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員・児童・保護者の周知率を8割以上とする。	・学校運営方針は今後も大きく変えることなく推進していくので、今後継続的な周知を図っていく。 ・家庭での状況を保護者と話し合いながら、学校と家庭で協力しながらさらに推進していく。	A	・学校経営方針については、育友会や山村留学総会等で保護者に説明したり、学校だより等で周知を図ったことで9割近い周知率となった。 ・3つのがんばることについて全校朝会で毎月振り返りをしたり、様々な活動のめあてを関連付けたりして指導をしてきたことで、児童自身が意識できるようになった。	・重点目標を周知するだけでなく、具体的にどのような指導を行っているかも合わせて、随時、保護者に発信していく。 ・行事等の企画、立案の際に、3つのがんばることのどれに関わるのか、どのように指導を進めるのかを明確にする。
	○開かれた学校作り	開かれた学校作りの推進	・学級だより，学校だより，学校ホームページ等による情報発信を拡大する。 ・保護者だけでなく，地域の方も含めた学校行事を充実させる。	・特に地域や留学生実親とも，しっかりとした結びつきを持っていきたいのでこれまでの取り組みを続ける。郵送に関しては，メールで子どもの様子を伝える等，対策を講じていく。 ・各種行事の意義と成果を積極的に発信することで、学校教育に関心をもってもらい、協力を得る体制作りを一層推進する。	B	・学校だより、学校ホームページについては、定期的な情報発信を行うことができた。学級だよりは発行頻度の差により、学級によって保護者の満足度に違いが見られた。 ・ホームページは定期的に更新しているが、閲覧数が伸び悩んでいる面が見られた。	・今後も定期的な学校だよりの発行により、情報発信をしていく。学級だよりについても、発行頻度を揃えるなどで、学級間に大きな差が出ないようにする。 ・学校ホームページをスマートフォンでも見やすいよう改善するなどの措置を行い、さらにたくさんの方に閲覧していただけるようにする。
	○山村留学の継続・発展	山村留学の継続・発展	・保護者・地域と協力して山村留学の継続・発展ができる学校をめざす。	・多くの方々に山村留学について興味を持たれているが，保護者や職員の負担は確実にある。規模を縮小していくか，他に協力者を求めるか，保護者と学校が今後，話合いを重ねていく。	A	・山村留学に係る行事や来年度募集については、例年通り行うことができた。その中でも、少しずつ業務の縮小ができた。	・山村留学に係る行事のための業務の縮小は、今後も引き続き行っていく。また、職員の回復措置も随時進めていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	○教員の資質向上	教職員の服務規律の保持に対する意識向上	・教職員の服務規律の保持に対する意識を向上する。	・服務規律についての通知文紹介や管理職からの話を毎月2～3行う。 ・専門家などを招いての研修や意識向上により，職員のモラルやコンプライアンスを更に高めていきたい。	A	・職員会議や連絡会において、管理職から通知や事例等をもとに服務規律保持について周知してきた。全職員が服務規律保持について強い意識を持つことができた。	・服務規律に対する緩みがないよう、自らを、また、お互いを戒めていくような体制を熟成していきたい。
	○危機管理	職員の危機管理の意識向上と危機管理体制の整備の充実	・危機管理マニュアルをもとに不審者侵入を始めとする避難訓練で全員が自分の役割を遂行する。	・職員及び児童の危機意識には，どれだけやっても十分とは思わないようにする。日常の場面においても職員は，児童に声かけを怠り無く行うよう指導する。 ・次年度も，危機管理マニュアルの読み合わせや修正を全職員で行うようにする。更なる危機管理への意識を高めていきたい。	B	・不審者や地震火災の避難訓練は計画通り実施することができ、危機への対応について職員児童ともに共通理解ができた。 ・児童が在校中や登下校時に怪我をする事例が何度かあった。学校生活や登下校中での行動については指導が必要。	・登下校中に怪我をすることの理由を児童自らが考えられるような場と時間をとる。また、全校帰りの会では、安全担当が中心となって、「東部小交通安全の誓い」の徹底を図る。

4　本年度のまとめ ・ 次年度の取組

すべての項目で概ね達成、ほぼ達成という結果になった。次年度に向けて、以下の点を改善・充実したいと考える。また、その際にはワークライフバランスを十分考慮しながら取り組む。①高学年については、ガイド学習のやり方を理解し自分たちで学習を進めることができるようになったが、中・低学年ではまだ十分ではない。学年ごとのマニュアルの整備・充実や話し合う力の向上を図ることで、主体的・対話的に学ぶことができるようにする。②ソーシャルスキルトレーニングを取り入れたことで、自己肯定感や他者を尊重する姿勢を育てることができた。ソーシャルスキルトレーニングは、実際の場面で使うことができるようにする。③自分の命は自分で守ることをさらに意識づける安全教育に取り組む。④学校だより、学級だよりや学校ホームページ等で定期的な情報発信を継続する。④山村留学に係る行事を含め各種行事の見直しを行い、さらに業務改善を進め、教材研究や研修の時間を生み出せるようにする。

●は共通評価項目、○は独自評価項目